

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	認知症対応型生活介護 ほのぼのファミリー	評価実施年月日	平成21年9月4日
評価実施構成員氏名	川上 植松 生田 馬場 谷 大森 田中 富山 南條 丸谷		
記録者氏名	川上 広子	記録年月日	平成21年9月6日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	職員アンケートから、職員の理念を出してもらい、幹部会議や職員会議で意見を出し合い、まとめたものを独自の理念として作り上げた。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に掲示し、常に職員や家族、来設された方など誰が見れるようにしている。又、理念は職員一人一人に縮小したものを配布しネームの裏など常に見れるよう携帯されている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	役場などにパンフレットを置いてもらっている。上記のように家族等には見てもらっている。法定遵守に従っての運営理念、運営方針の説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出時に挨拶する程度である。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の盆踊り、焼肉などに参加したり清掃活動に参加し交流に努めている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者の暮らしがよくわかっていないので取り組んでいないのが現状であるが、介護者の男性の会というのがある事が、地域包括支援連絡会議でわかったので協力ができる事があった場合協力する事とした。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置しているが、入っていないのが現状であるが、少しの不満や苦情は直接聞くことが多く早期に話し合い結果的に納得されているようだが、結果によっては幹部会により検討をし家族などにかえすようにしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時には日頃の生活ぶりや受診の結果等健康状態など報告し、トラブルなどがあった場合は必ず報告し今後の対応について相談等している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議ならびに年1回～2回は有料老人ホームと共に運営懇談会を行っている。なのでそのときの質問や意見は聞いて検討し運営に反映するよう努力をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は必ず管理者へ報告をしてくれているので、その意見又は提案は職員を交え検討し反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	会社全体で勤務調整を行う事もある。なるべく職員には休みの希望をかなえつつ調整し職員を交えて調整には協力してもらっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動時にはすぐに変わる事無く馴染みの職員と新人とが一緒に働く期間をもうけ、利用者には新人と馴染みの職員と一緒に働くことにより早く馴染めるような工夫努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>段階に応じての育成計画はないものの、法人の内部で研修など行っている。新人だけに限らずなるべく全員の参加を交互に出来るような工夫をしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会に加入し研修会に参加し交流をはかっている。地域との交流には包括の推進会議に参加するなど地域の福祉の情報交換がある。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>特別ストレスの軽減に取り組んでいるわけではないが、職員は管理者に少しの意見でも話をするよう促している。体調がすぐれないようなときは、職員の仕事の担当を交代させるなど工夫している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の努力は日頃かわりを多く持つことで、理解をしている。各自が向上心を持てるよう努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所や事前の見学時にはなるべく本人が来るようお願いをし、質問や不安などは聴いて家族を交えて話すよう心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が不安になるのは、認知症の理解ができない事が多く、知っている限りの認知症についてお話をさせていただき、その他でも困っていることや今後の不安などは入所前に十分に話し合っておくよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期面談から幾度か面談を重ね必要な支援を見極めサービス対応に心がけている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心していけるよう、事前の面談時に聞いた情報などをもとに、馴染みの話をしたり顔を覚えてもらうなどなどの自己紹介など徐々に馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、日頃から一人ひとりの趣味などを反映し皆が好きな歌番組を録画したり、塗り絵やパズルなどしたりと工夫してくれているなかで一緒に参加することで共に楽しむなどの関係を工夫している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、家族が来ると必ず挨拶をし日頃の様子を家族に話すようにしている中で家族との関係も築いている。そのなかで家族から職員に入居者に対しての相談等も受けているが一緒に考え家族が安心できるような工夫をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族の関係の理解には知りうる情報を職員・計画作成担当者・管理者で共有している。よりよい関係が築いていけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人や関係の継続は、なかなか難しいが、面談での制限はしていないので今まで馴染みのあった人はいつでも来れるようにしている。 馴染みのあった場所に今でも外出により(家族対応)通っている人もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日頃接しているなかで、利用者の個々の特性を把握しながら係わりを持っている。席が決まっているので、馴染みの人同士で話をしたり出来ているので関係を大切にしている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了して家庭に帰った人などはいないが、違う施設や病院などには顔を出すなどし、関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は事前の面談で確認をしている。が希望が困難な場合は十分に話し合い希望が一番近いところまでできる事を検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族と本人の事前面談でほぼ聴いて把握している。センター方式アセスメントをしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の朝のミーティングにより夜間の状態の把握を共有し、夕方のミニカンファレンスにより日中の状態も共有し把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の修正は必要時に見直し、実際の介護内容が反映されるような計画になっている。また、できる事できない事・わかる事わからない事などを中心に介護員や管理者の意見・話し合いをしながら評価し計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員・管理者は、特変や変化があれば即時に介護支援専門員に報告し介護支援専門員は現状把握に確認・監理のもと本人又は家族と話し合い現状に即した計画に変更している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は、すべて生活シートに記入するようにしている。介護支援専門員は日頃の情報を共有するか、生活シートを確認し計画見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	当事業所には、他にも有料老人ホームやデイサービスがあり、身体の変化や要望に応じてサービスの利用を支援するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在、東川高校のインターシップを受け入れ、夏祭り・運動会等でボランティア、地域民生委員の施設見学研修の受入れ、年一回の消防避難訓練と、救急救命講習は全員受けるようにしている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望があれば必要に応じて、居宅のケアマネや他の施設のケアマネと他のサービスの利用の有無など、その都度相談している。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、権利擁護関係では特に制度利用を必要としているケースは無いが、地域の拠点である地域包括には顔を出して、連携はとれる様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日頃の状態は、同じ敷地内で働く看護職員や、医療連携体制で支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に相談しながらすすめている。専門医に受診が必要な場合は、主治医の紹介状をもって専門医への受診、治療がスムーズに受けられるよう対応している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制加算をとり、担当看護師の助言や相談で日頃の健康管理に努めている。又同一敷地内の看護職員の協力を得て緊急対応するケースもある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先に面会に行き状態の把握と治療状態等は把握している。今後の見通しや医師からの説明時には必ず家族と同居させてもらい、注意点など確認し退院後の受入れの確認をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期については、かかりつけ医師と家族と交えて話し合い、家族の意向を優先としかかりつけ医師の判断のもと方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向けて、かかりつけ医師との話も取り組みもできている。利用者本人が安心して生活出来るよう努めている。今後の変化に備えては、かかりつけ医の判断にもよるが、できる事・できない事はかかりつけ医と話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>事前に料金等、他の情報を伝えて不安があれば事前面談により確認している。本人が納得しているか、ダメージが無いか事前に解決できるよう事前面談により顔見知りになるなどの工夫をしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入所時に、文章で個人情報の取り扱いでの同意は得ている。日頃の係わりでも、プライバシーや自尊心を損ねることの無いように、配慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>時間はかかっても、本人の思いは引き出していける様にしている。じっくりと時間をかけ、話し合い納得しながら暮らせるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴曜日など決まっているが、本人に確認し順番を変えたり、1日の流れの中で本人に確認を取りながらペースを大切にしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>今のところ本人の希望する店などはないが、理美容は訪問で来てもらっている。切る切らないは、本人に確認し決めている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備はなかなか出来ていないのが現状であるが、できる事を探して一緒に取り組むようにしている。後片付けは、洗物まではなかなか現状で難しいので、お膳を下げるなど個々にあった出来ることをしてもらうよう支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	現状では禁煙・禁酒となっているが、おやつや飲み物は好みを聴いて買い物代行や同行により買うようにしている。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	夜間帯はオムツの人もあるが、日中帯は紙パンツに履き替え羞恥心を損ねないように排泄パターンに気をつけ習慣を活かすよう支援している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	曜日は決めてしまっているが、時間やタイミングは個々に合わせて調整するようにしている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	本人が安心して安眠できるように、昼の休息が長くなった場合を除き希望に添っている。長くなった場合は、声かけなどを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	一人ひとりの生活歴を把握し、日常的に活用している。役割・楽しみを支援している。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	本人で持っている人は数人いるが、使い道は個々で考えているようです。他の人に関しては、お小遣いとして家族から預ったお金を管理しているが、外出や買い物時に本人の希望する使い方をしている。尚、医療費等は代行して支払いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりとはいえないが、家族の対応で外出する方がいたり、散歩に出るときなどは、なるべく希望にそって外出できるようにしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者が個別に外出する支援は出来ていないが、家族が対応して行きたい所へなるべく行けるよう助言など機会を作る支援をしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	基本的に手紙も電話も制限は無いが、かける相手が知りえない人の場合などは相手に迷惑にならないように事前に家族など確認してから電話するようにしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	特に工夫をしているわけではないが、利用者家族・知人・友人などは気軽に訪問してきている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては、外部で研修をしてきた職員により内部研修を行うなど、絶対にしないという職員全員での取り組みをしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけることはない。ただ、夜間は外からの進入を防ぐ為の内鍵はあるが、外からかけるようなことはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の動きには、目を配り声かけをしている。そうした普段からの関わりにより様子や所在をいつでも把握し安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品はいつでも介護者側が管理できる場所におき、利用者との関わりの中で危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	知識的には、まだ職員が一律になっていない。知識がある職員が、危険だと他職員に促す事や、管理者に伝えカンファレンスするなどし、事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生に備え、全員が普通救急救命講習を受けるといった取り組みをしている。定期的にはまだいないが、講習を2回・3回と参加している人もいる。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の避難訓練を行い、地域にも包括や役場を通じて協力が得られるよう働きかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	日頃の生活状況を説明する中で、危険リスクも説明しリスクが回避できるようなことはないか又は家族からヒントをもらう事もあるがよく話し合いをしてお互いに対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化や小さな切り傷擦り傷までを共有し、速やかに対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬にはかなり注意をしている。いつでも閲覧できる場所に薬の情報を綴ったものを設置し飲み忘れ、飲み間違いが無いように努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分を多く摂る工夫を日頃からし、飲み薬などもかかりつけ医と相談しながら、便のチェック表を用い取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後全員ではないが、本人の確認をしながらこちらで介助する方は毎食後口腔ケアをおこなっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスは、細かくは行っていないが、一日1400カロリーをめどに摂取するようにしている。水分はなるべく摂取量を増やすようゼリーをおやつにつくるなど工夫をし習慣にしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは、マスク手洗いうがいなど徹底するようにしている。その他の感染症対策として、塩素系のもので害にならない濃度に、ふきん・はし・掃除・洗濯・お風呂・テーブルすべてにおいて使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	新鮮なものを材料にするよう努めている。台所・調理用具周りも消毒するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関は、デイサービス事務所との共有となっている。スロープで車椅子の利用者も安心して外出できるなどの工夫をしている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	共有の空間は個人が自由に使用できるようにしている。皆で作ったものを飾ったり明るく過ごせる工夫はしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有空間にはテーブルがあるが、一人ひとりのいつもの席があり利用者同士思い思いに自由に出来るよう工夫している。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家族が持ってきた馴染みの物を置いているので、心地よく過ごしているようです。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	気になるにおいのときは換気をし、消臭スプレーを利用する事もある。温度には気を使い外気温と差が無いように配慮ではないが、常に同じ位の温度に保つよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの身体機能を活かし安全で過ごせるようベッドやマットには配慮や工夫をしている</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室の入り口にプレートに印をつけ自分の部屋がわかるようにしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>少し離れてはいるが、畑があり夏には利用者の出来る範囲で協力してもらっている。また、室内にも花などがあり、水をやるなどの作業でできる事をしてもらっている。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <del>ほぼ全ての利用者</del> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <del>毎日ある</del> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2/3くらい</del> <del>利用者の1/3くらい</del> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2/3くらい</del> <del>利用者の1/3くらい</del> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <del>ほぼ全ての利用者</del> <del>利用者の2/3くらい</del> <del>利用者の1/3くらい</del> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <del>ほぼ全ての利用者</del> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <del>ほぼ全ての利用者</del> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <del>ほぼ全ての家族</del> 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <del>ほぼ毎日のように</del> 数日に1回程度 <del>たまに</del> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <del>少しずつ増えている</del>            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <del>職員の2/3くらいが</del>            職員の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>            利用者の1/3くらいが            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が  <del>家族等の2/3くらいが</del>            家族等の1/3くらいが            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)